

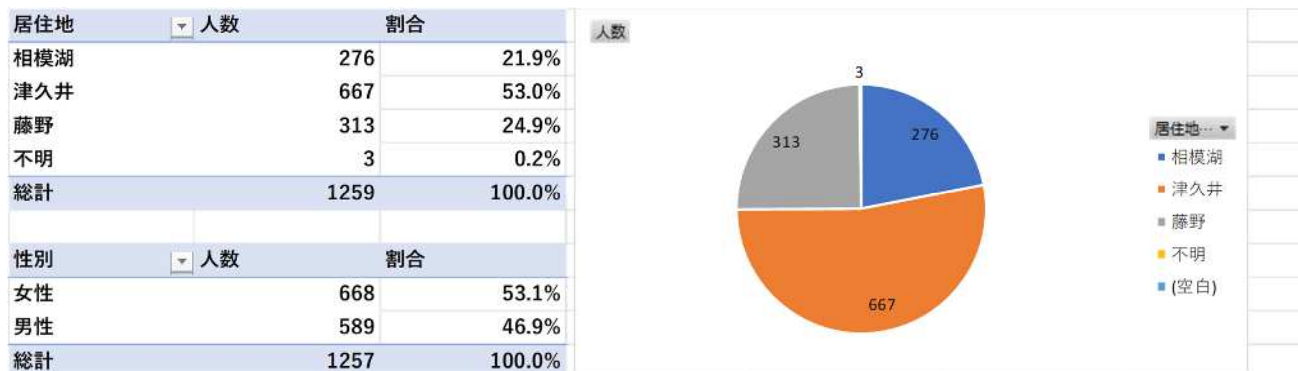
中山間地域の医療に関する市民アンケート調査等の結果について

1. 市民アンケート調査

○ 結果の概要

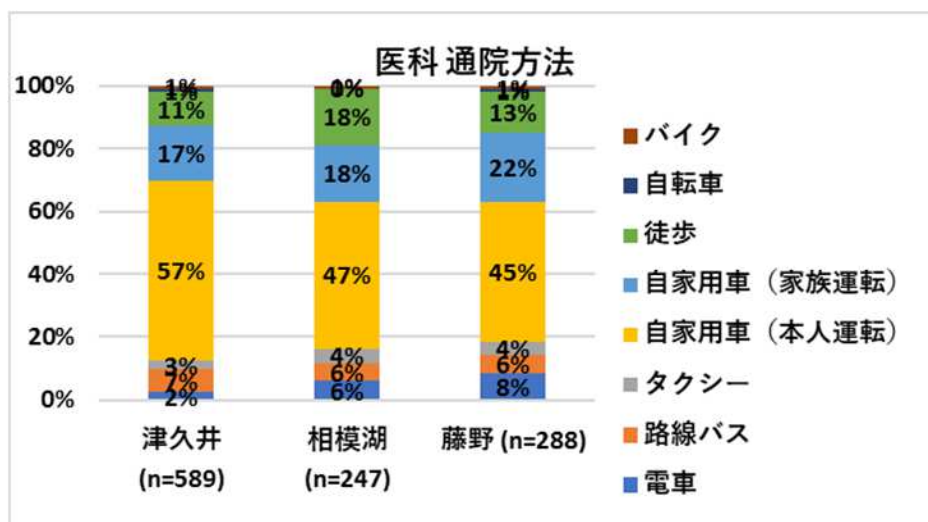
2,000人を無作為抽出し、郵送による調査用紙の配付・回収を実施。980人から回答。(回収率49.0%)

また、市所管の診療所及び各地域包括支援センターにて390人に配布、279人から回答。(回収率71.5%)



○ 通院について

約7割が自家用車による。通院に平均20分程度を要する。



○ 在宅医療の充実について

約88%が「必要だと思う」と回答している。

E-13 居住地域での在宅医療の充実について	N	1259
水準	度数	割合
1 必要だと思う	1107	87.9%
2 必要ではないと思う	63	5.0%

○ オンライン診療を活用した「移動医療サービス」の充実について

約58%が「利用してみたい」と回答している。

E-15 移動医療サービスの利用について	N	1259
水準	度数	割合
1 利用してみたい	731	58.1%
2 利用したくない	391	31.1%

○ 電子健康記録について

約71%が「推進してほしい」と回答している。

※電子健康記録 … 個人の診療や検査の情報を生涯にわたって電子媒体に記録し、その情報を医療サービスの提供に活用する仕組み。

E-16 「電子健康記録」取組の推進について	N	1259
水準	度数	割合
1 推進してほしい	894	71.0%
2 推進してほしくない	162	12.9%

2. 補足調査

○ 結果の主な内容

当該地域の医療と健康の実態把握の精度を高めるため、以下5項目の補足調査を行った。

- (1) 市所管の6診療所 看護師（北里大学から派遣の行政実務研修員）による診療状況調査
 - ・市所管の6診療所では、慢性疾患（高血圧、脂質異常症等）の受診が多い。
 - ・患者の多くが自分の健康状況の記録を持参してくる。
 - ・市の診療所間の試みとして、地域全体で情報共有できる連携の場が求められる。
 - ・医療人材について、定期的な診療所間の情報共有や人材交流、最低限の業務の統一化を図り、将来を見据えた後進育成などの対策が求められる。
- (2) 地域包括支援センター ヒアリング調査
 - ・津久井、相模湖地区においては、閉じこもり傾向は「ある」または「増えている」と認識。
 - ・高血圧、糖尿病、難病が目につく。また、オーラルフレイルへの理解は不足しているように感じる。
- (3) 保健師（地区担当経験者）ヒアリング調査
 - ・藤野地区については「ゆるやかな見守り」が行われており、閉じこもり傾向が高い地域とは捉えていない。
 - ・多職種連携において、デジタル技術の活用は有用である。
- (4) 市民生活習慣実態調査（平成28年度実施）の結果の確認
 - ・「健康診断を受けた」や「市が実施している各種がん検診を受けた」という回答が、全市と比較して低い。
 - ・グループ活動等に参加している割合が高い。
- (5) 高齢者等実態調査（令和元年度実施）の結果の確認
 - ・「移動すること」に困難を抱えており、在宅医療など「訪問」によるサービスの充実が求められている。
 - ・市が取り組むべき施策として「介護が必要とならないような予防サービスの充実」を望む回答が多い。

3. その他（市所管の6診療所の主な課題）

- 医療従事者の安定的な確保が難しい。
- 建設して50年を迎えるなど、建物や設備・機器の老朽化が進行している施設がある。
- 1年間に約1億円の公費（赤字分）を投入している。（令和2年度実績）

	市立診療所（指定管理）			国保診療所（市直営）			計
	青野原	千木良	藤野	青根	内郷	日連	
収入（A）	61,327	38,034	34,783	32,895	65,634	61,525	294,198
支出（B）	69,034	71,283	59,334	49,144	64,329	78,545	391,669
差（C = A - B）	▲ 7,707	▲ 33,249	▲ 24,551	▲ 16,249	1,305	▲ 17,020	▲ 97,471
受診者数（D）	4,732	2,988	4,571	2,357	6,205	4,883	25,736
受診者あたり公費負担額（C/D）	▲ 2	▲ 11	▲ 5	▲ 7	0	▲ 3	▲ 4

※市立診療所については、全体の収入から指定管理料などの公的な収入を除いて計算。

まちづくり会議 及び 中山間地域の持続可能な医療のあり方に関する懇話会 での主な意見

区分	機会	主な意見（要約）
全体	まちづくり会議	<p>いかにセーフティーネットを維持できるかが問題。</p> <p>検診や予防接種など、隣接市との連携があるとよい。</p> <p>意見が高齢者に向きがちなところがある中で、小児のほうにも目を向けてほしい</p>
	懇話会	<p>都県境に位置しているこの地域では、都県境を跨いだ中でも同じように医療を提供できると良い。</p> <p>地区が異なることでのサービスの偏りが過度に生じることは避けるべきで、住民ニーズへの対応をそれぞれの地区内で完結できる環境があっても良い。</p> <p>医療需要を踏まえ、需要に合わせて対応できる将来計画が必要。</p> <p>多死社会を見据え、在宅での看取りが増えることも視野に入れておくことが必要。</p> <p>地域の医療資源の魅力が十分に周知されていないと感じる。</p> <p>市立診療所の経営状況に関していえば、課題も多くあると感じている。</p> <p>公立診療所が必要な地域として、どこまでの支出が許されるか判断が必要。</p> <p>院内処方診療所では、看護師が多忙で他に影響が出ている状況も見受けられる。</p> <p>院外処方により経営改善や質の向上に資すると考えるが、院外処方が困難な地域もある。</p>
通院	まちづくり会議	<p>訪問診療だけでなく、集会所を活用した出張診療所が必要ではないか。</p> <p>医療機関に連れて行ってほしいというニーズもある。</p>
	懇話会	<p>利用しやすい移動支援策があるとありがたい。</p> <p>今後、通院できなくなる患者が増えると考えられる。</p> <p>今後、訪問診療のニーズが増えることが予想される。</p> <p>通院手段の確保が課題で、訪問診療に力をいれなければいけない。</p> <p>訪問診療では、必要としている方に必要な医療を届けることが大切だが、訪問診療を広げるだけでなく、外来診療に頼ってもらうことも必要である。</p> <p>訪問診療には、事前準備による診療時間短縮などの効率化が必要。</p> <p>在宅医療といっても、看取りまでやる場合もあれば、何かあったときにちょっと来てほしいというニーズもある。</p> <p>訪問診療の充実と並行して、入院・入居施設を増やす対策も必要ではないか。</p>
デジタル化	まちづくり会議	<p>医療の分野でもデジタル化の推進が必要。</p>
	懇話会	<p>患者側もオンライン診療に対応する必要がある。</p> <p>特に高齢者はオンライン診療を活用できるのか課題があると感じる。</p> <p>オンライン診療の推進には、機器を揃えたり、対応する医師も研鑽を積む必要があり、地域で実施するには、いくつもの課題を解決する必要がある。</p> <p>訪問診療を充実するにしても、3か月に1回程度は対面でフォローアップも必要であり、オンラインで対応できるものと、そうでないものが棲み分けられていくと思う。</p> <p>カルテの電子化などにより複数の医療機関で共有できると、夜間や救急の対応等でメリットがある。</p> <p>現在の市立診療所でオンライン診療を推進するためには、カルテが電子化されていないなどの課題をクリアする必要がある。</p>
人材	懇話会	<p>診療所にどんな医師がいるかは、地域住民にとって大切。</p> <p>市として有望な若い医師を育てたり連れてくるシステムを持っていることは大切。</p> <p>医療従事者のマンパワー不足という課題がある。</p> <p>医療従事者だけでなく、ケアマネジャーなど介護人材についても一定の質の確保・向上が必要。</p> <p>地域医療への興味を喚起する方策として、医学生の実習の受け入れの拡充なども検討されるとよい。</p>
	懇話会	<p>患者中心の医療と安心して暮らせる地域づくりのためには、多職種連携、地域連携、総合診療医と専門医との質の高い連携など、「連携」が重要である。ここには、ケアマネジャーや訪問看護師、民生委員なども含む。</p> <p>地域の中で、知識豊富な先生に質問できるシステムができると良い。</p> <p>訪問看護の現場においては、幅広く診療できる「総合診療医」との連携を進めることは大切と考えている。</p> <p>多職種が連携して患者を支えていくことが大切で、病診連携や病病連携、看看連携を進めていくことが必要。</p> <p>動けない独居の高齢者の見守りやサポートには関係者間での連携が必要。</p> <p>地域ケア会議がもっと活性化されると良い。</p>
予防	懇話会	<p>将来に向けては予防医療にも目を向けていくことが大切。</p> <p>この地域は検診受診率が低い傾向が見える中で、セルフケアの取組を進め賢い患者になってもらうことも必要。</p> <p>今後は、セルフケアときめ細やかな訪問服薬指導が両立されたメリハリのある地域医療が求められる。</p>

中山間地域の医療に関する意識調査 集計結果

A-1 居住地区

水準	度数	割合
相模湖	275	22.0%
津久井	666	53.2%
藤野	311	24.8%
合計	1252	100.0%

A-2 世帯構成

水準	度数	割合
1 1人暮らし	179	14.4%
2 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	341	27.3%
3 夫婦2人暮らし（配偶者65歳未満）	95	7.6%
4 親子（2世代）	469	37.6%
5 親・子・孫（3世代）	113	9.1%
6 施設などでの共同生活	15	1.2%
7 その他	35	2.8%
合計	1247	100.0%

B-3 性別

水準	度数	割合
1 男性	589	46.9%
2 女性	668	53.1%
合計	1257	100.0%

B-4 年代

水準	度数	割合
10代	10	0.8%
20代	42	3.4%
30代	51	4.1%
40代	119	9.5%
50代	163	13.0%
60代	251	20.0%
70代	376	30.0%
80代	200	16.0%
90代	39	3.1%
100代	1	0.1%
合計	1252	100.0%

年齢（歳）

平均	65.4
標準偏差	16.6
平均の標準誤差	0.5
平均の上側95%	66.3
平均の下側95%	64.4
N	1252

B-5 健康状態

水準	度数	割合
1 健康	408	32.7%
2 どちらかといえば健康	597	47.8%
3 どちらかといえば健康でない	177	14.2%
4 健康でない	67	5.4%
合計	1249	100.0%

C-7 夜間・休日に体調不良になった場合の対応	N	1608
水準	度数	割合
西メディカルセンターを受診	198	12.3%
津久井地域在宅当番医療機関を受診	197	12.3%
救急医療情報センターで紹介された医療機関を受診	261	16.2%
かかりつけ医に問い合わせ受診	246	15.3%
救急車を呼ぶ	473	29.4%
その他	233	14.5%

D-8 市所管の6診療所について	N	1259
水準	度数	割合
1 知っている	822	65.3%
2 知らない	386	30.7%

D-9 市所管の6診療所の利用有無	N	816
水準	度数	割合
1 利用している	450	55.1%
2 利用していない	366	44.9%

E-11 病気や長期間の療養が必要となった場合に過ご	N	1259
水準	度数	割合
1 自宅	607	48.2%
2 病院	493	39.2%
3 介護施設	143	39.2%
4 その他	44	11.4%

E-12 在宅医療について	N	1259
水準	度数	割合
1 知っている	881	70.0%
2 知らない	334	26.5%

E-13 居住地域での在宅医療の充実について	N	1259
水準	度数	割合
1 必要だと思う	1107	87.9%
2 必要ではないと思う	63	5.0%

E-14 オンライン診療の利用について	N	1259
水準	度数	割合
1 利用してみたい	595	47.3%
2 利用したくない	551	43.8%
3 利用したことがある	20	1.6%

E-15 移動医療サービスの利用について	N	1259
水準	度数	割合
1 利用してみたい	731	58.1%
2 利用したくない	391	31.1%

E-16 「電子健康記録」取組の推進について	N	1259
水準	度数	割合
1 推進してほしい	894	71.0%
2 推進してほしくない	162	12.9%

E-17 「人生会議」の利用について	N	1259
水準	度数	割合
1 利用してみたい	650	51.6%
2 利用したくない	373	29.6%
3 既に利用している	22	1.7%